

令和 4 年度 (2022) 共同利用研究・研究成果報告書

研究課題名	和文：宇宙素粒子若手の会 第 7 回 秋の研究会 英文：YMAP symposium 2022
研究代表者	鷲見貴生(国立天文台)
参加研究者	【参加登録順】 三木信太郎 (ICRR)、中村輝石 (東北大)、佐藤大輝 (信州大)、細川佳志 (ICRR)、 二宮滉太郎 (名古屋大)、森井保次 (千葉大)、守屋堯 (国立天文台)、岩谷光太 (千葉大)、 Joshua Baxter (ICRR)、北上悠河 (名古屋大)、橋山和明 (ICRR)、水野航太 (信州大)、 當波孝明 (信州大)、西尾瑛司 (大阪電気通信大学)、高橋薫 (ICRR)、藤末紘三 (ICRR)、 阿部正太郎 (ICRR)、水越彗太 (JAXA)、千葉めぐみ (千葉大)、Aske Rosted (千葉大)、 佐藤聖真 (大阪電気通信大)、村上実哉斗 (大阪電気通信大)、櫻井真由 (早稲田大)、 尾崎秀義 (東北大)
研究成果概要	<p>本研究集会は、2016 年 3 月に発足した宇宙素粒子若手の会が運営を担い、下記の内容で研究会を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 研究会 HP：https://www.icrr.u-tokyo.ac.jp/YMAP/event/conf2022/index.html ● 日程：2022 年 12 月 9 日~10 日 ● 場所：東大宇宙線研 神岡総合研究棟 1 階 梶田ホール (対面のみ) ● 参加者：25 名 (学部生 3, 修士 9, 博士 7, ポスドク以上 6 名) <p>本研究集会の目的は、若手研究者と宇宙素粒子関連分野の多岐にわたる研究について議論し、交流を深めることである。今年度は行動制限も解消されたことから、十分な感染症対策を行ったうえで対面のみで開催とした。参加者全員による口頭発表および国立天文台・守屋氏による超新星理論の招待講演に加え、新たな試みとして神岡坑内実験室の見学ツアーを実施し、SK・KAGRA・KamLAND の地下実験室をそれぞれの実験に参加する若手研究者が紹介した。</p> <p>本研究集会は、ガンマ線・X 線・宇宙線・ニュートリノ・粒子加速・重力波などの多岐にわたる分野の若手研究者が領域を分断して交流する良い機会となった。今年度は実験室見学を兼ねた対面での開催によって、充実した議論・交流を実現できた。参加者アンケートでは「来年度も参加したい」という意見を多く得ており、今後も継続して開催していきたいと考えている。</p>
整理番号	K2